

2014年1月3日

国土交通省

大臣 太田 昭宏 様

関東地方整備局

河川部長 泊 宏 様

利根川上流河川事務所

所 長 須見 徹太郎 様

利根大堰周辺の土砂採取工事による自然破壊の進行 と自然再生事業に関する再公開質問状

行田ナチュラリストネットワーク

代表 橋本 恭一

NPO 法人ふるさと創生クラブ

代表 今村 武蔵

NPO 法人熊谷の環境を考える連絡協議会

副会長 新井 千明

水源開発問題全国連絡会

共同代表 嶋津 暉之

全国環境保護連盟

代表 岩田 薫

私たちが2013年5月23日に、国土交通大臣に提出した「利根大堰周辺の土砂採取工事による自然破壊の進行と自然再生事業に関する公開質問状」につきましては、同年12月3日になって利根川上流河川事務所長からの正式な文書回答が届きました。

私たちが指摘した「たまり池」の自然再生や「河岸砂礫地」等への車両乗入れ制限については引き続き検討していく、そして「利根大堰周辺の治水と環境検討会」の問題点については別途に打合せの場を持ちたい、等々の私たちにとっての重大関心事にはまともに答えることなく基本的に問題を先送りする回答が記されていました。

こうした国交省の回答内容に関して関連団体間で協議しましたが、くしくもこの問題を報道した2013年9月24日の朝日新聞が記しているように「失われた湿地、放置7年」もの長期間にわたって河川環境の破壊が今日まで継続されている事実があり、「これ以上、一刻も放置できない」と言うのが、私たちの共通する認識です。

私たちは、この問題に対する社会的責任を有する立場にあるとの思いから公開質問状提出前の2013年4月から回答文書が届いた12月まで、利根大堰下流左岸地区において動植物等に関する自主的な環境調査を改めて行ってきました。その結果、当該地区で最も生物多様性が豊かで保全重要性が高かった「たまり池」では、掘削工事前の2005年にはホサギノフサモやヒメアカネ等のレッドリスト希少種が24種も確認されていたものが、2013年にはわずか2種が記録されたにすぎず、なんと22種が絶滅状態に至っていることが明らかになりました。普通種も含めた池沼性動植物の確認種全体では、2005年の35種が2013年の5種へと30種が未確認となり、生物多様性が85%も減少するほど自然破壊が進行した現状となっています（添付資料参照）。

これらの環境悪化の原因は、5月23日付質問状で指摘した通り、土砂採取工事に伴う水位低下と車両侵入の2つであることは明白です。そして、これらの対策として①重要拠点となる「たまり池」の自然再生対策の推進 ②四駆やモトクロス等の車両侵入制限対策の徹底、などの具体化をこれまでに何度も申し入れてきました。

私たちが国土交通省に極めて大きな不信感を持たざるを得ないのは、これらの対策実施への見解を公開質問状で改めて問うているにもかかわらず、質問状提出以降の5月から12月にかけても引き続き四駆やモトクロスが「たまり池」や「河岸砂礫地」等を縦横無尽に走りまわり、さらなる河川環境の悪化が進行してしまった事実です。自然破壊の実態の写真を提示してまで強く要請しているにもかかわらず、なぜ5月以降も何の措置も講ぜず、しかも半年以上もたった12月になって「引き続き検討する」や「別途打合せの場を持ちたい」等の返答が今さら示されるのでしょうか。

私たちは、これまで2010年から'12年までに行われた検討会や現地説明会で何度も同じことを申し入れており、それでも工事も伴う自然破壊だけが進む現状が全く改善されないからこそ、2度目となる国土交通大臣あての公開質問状を提出せざるを得ませんでした。その回答が、「引き続き検討する」や「別途に打合せの場を持ちたい」では、またもや同じことの繰り返しになるとしか思えません。

土砂採取工事により生物多様性への壊滅的な悪影響が進んでしまった利根大堰下流の現状については、これ以上の先送りは決して看過できないことから、河川管理責任者にこの問題を改善させる上での前提となる基本的な見解について、改めて明解な回答を求めたいと思います。私たちとしては、土砂掘削による自然破壊が生じた2006年以降7年以上にわたって同じ議論ばかりを繰り返し、またもや検討の場を持ちたいと言われても、にわかに信用する気持ちにはなれません。河川管理者としての明確な意思表示

があつて始めて、新たな協議に応じる意味が生じると共に、河川環境の改善に向けた具体的な一歩が踏み出せると考えます。

以上の趣旨から下記の質問に対する文書での回答を、遠やかにお願いたします。

記

1. 私たちの自主調査で明らかになったように、これまでの土砂採取工事の実施によって、「たまり池」の生物多様性は壊滅的な悪影響が生じている。これ以上放置することなく「たまり池」の自然再生対策の実施を、河川管理者の優先的な仕事として責任を持って取組むことを表明するか、それとも引き続き検討するとして先送りする意向か、を明確にしていきたい。
2. 利根大堰下流地区の「たまり池」や「河岸砂礫地」等の大切な河川環境への四駆やモトクロスの縦横無尽の侵入走行は、生物多様性のみならず周辺住民の苦情や堤防保護上も問題となっていることは明らかである。あくまでも、河川敷は自由利用が原則との従来通りの見解に固執するのか、それとも少なくとも「たまり池」や「河川砂礫地」等の重要環境への侵入制限措置を早急に具体化するか、の見通しを明確にしていきたい。
3. 平成 25 年 5 月に策定公表された「利根川水系河川整備計画」では、河川環境の整備と保全に関する事項（P62）において“利根川・江戸川における自然環境の整備と保全については、生物の生息・生育地の広域的なつながりの確保に努め、流域住民や関係機関と連携し、エコロジカル・ネットワークの形成を推進する”ことが明記されている。これまでに渡良瀬遊水地の湿地再生や江戸川河岸ワンド創出等の環境対策は NP0 にも知られているが、利根川本川については、上記されている河川環境の整備保全対策が推進されるどころか、今もって土砂採取工事に伴う環境破壊だけが進んでいることは前述した通りである。河川整備計画に位置づけられている「河川環境の整備・保全対策」の推進について、利根川本川では放棄する意向であるのか、それとも利根川全体で取組むつもりがあるのか、を明確にしていきたい。

以上

【 連絡先 】

全国環境保護連盟

代表 岩田 薫

TEL. [REDACTED]

FAX. [REDACTED]

利根大堰下流左岸『たまり池』における主な池沼性動植物の絶滅状況

		レッドデータブック		保全時期	周辺掘削	現状	備 考
		国（環境省）	埼玉県/群馬県	2005 年	2007 年	2013 年	
植 物・植 生	A. 沈水植物 ・エビモ ・ホザキノフサモ ・ウリカワ	— — —	○ ○ ○	● ● ●	× ● ×	× × ×	
	B. 浮葉植物 ・ヒシ ・アオウキクサ	— —	○ —	● ●	● ●	× ×	
	C. 抽水植物 ・ガマ、コガマ（群落） ・サジオモダカ ・マコモ（群落） ・ヨシ（群落）	— — — —	— ○ — —	● ● ● ●	● × ● ●	× × × ×	群落消滅 群落消滅 群落消滅
	D. 湿性植物 ・ミゾコウジュ ・タコノアシ ・ハンゲショウ（群落） ・カワヂシャ	○ ○ — ○	○ ○ ○ ○	● ● ● ●	● ● × ×	× × × ×	群落消滅
	E. 水辺林 ・アカメヤナギ、カワヤナギ（群落） ・オニグルミ	— —	— —	● ●	● ●	● ●	
	A. 哺乳類 ・イタチ	—	○	●	●	●	足跡記録
	B. 鳥類 ・カイツブリ（繁殖） ・バン（繁殖） ・カルガモ（繁殖） ・カワセミ（繁殖）	— — — —	— ○ — ○	● ● ● ●	× × ● ×	× × × ×	営巣消滅 営巣消滅 営巣消滅 営巣消滅
	C. 爬虫類 ・クサガメ	—	○	●	●	×	
	D. 両生類 ・ニホンアカガエル（繁殖） ・トウキョウダルマガエル（繁殖） ・シュレーゲルアオガエル（繁殖） ・アズマヒキガエル（繁殖） ・アマガエル（繁殖）	— — — — —	○ ○ ○ — —	● ● ● ● ●	● × × ● ●	× × × × ●	産卵消滅 産卵消滅 産卵消滅 産卵消滅
	E. 魚類 ・メダカ ・ジュズカケハゼ	○ ○	○ ○	● ●	× ×	× ×	
動 物	F. 甲殻類 ・ヌカエビ	—	○	●	●	×	
	G. 昆虫類 ・アオモンイトトンボ ・ヒメアカネ ・チョウトンボ ・ミズカマキリ ・タイコウチ ・コムラサキ	— — — — — —	○ ○ ○ — — ○	● ● ● ● ● ●	× × ● ● ● ●	× × × × × ●	
計	植物 15 種、動物 20 種、合計 35 種	5 種	23 種	35 種	21 種	5 種	

■調査時期

【2005 年】

土砂掘削を免れ、現況保全されている時期

※全体 35 種（うち希少種 24 種）確認

【2007 年】

再掘削工事により、周辺まで掘削がおよんだ時期

※全体 21 種（うち希少種 10 種）確認

【2013 年】

再掘削の工事道路を利用し、モトクロス等の侵入が増大して、池自体が破壊されている現在

※全体 5 種（うち希少種 2 種）確認

■調査期日

2013 年

① 4 月 14 日

② 5 月 18 日

③ 6 月 16 日

④ 7 月 8 日

⑤ 9 月 14 日

⑥ 10 月 27 日

⑦ 11 月 16 日

⑧ 12 月 15 日

※2005 年時点では、年間を通じて池全体の水が保たれていたが、2013 年には 7 月にわずか 2 箇所で泥水が溜まっていたのみで、毎月モトクロスが侵入し池全体が完全に破壊されている。

●「たまり池」で生育・生息を確認

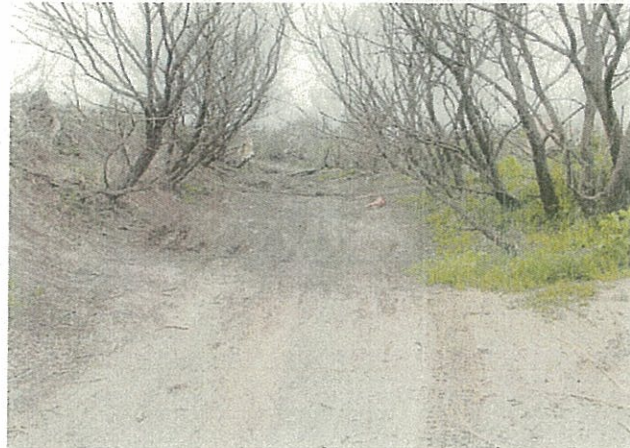
×「たまり池」で生育・生息が消滅

●2007 年 4 月 27 日 周辺まで掘削工事がおよんだが「たまり池」の水辺環境が保たれていた時期の状況



利根大堰下流左岸地区で最も生物
多様性が豊かであった「たまり池」
の変遷

●2013 年 4 月 14 日 平成 25 年度の現状（春期）



●2013 年 7 月 6 日 平成 25 年度の現状（夏期）

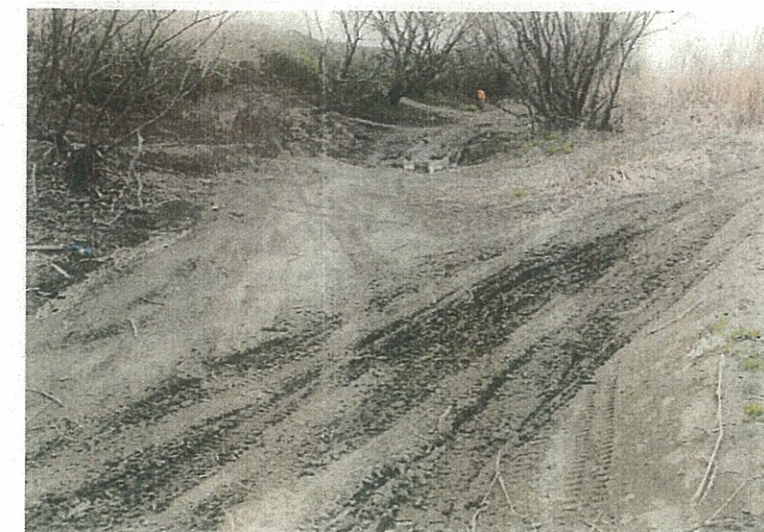


●2013 年 12 月 15 日 平成 25 年度の現状（冬期）



◆利根大堰下流左岸の「河岸砂礫地」への四駆・モトクロス等による環境破壊の現状

●2013年4月14日



●2013年7月6日



●2013年12月15日

